あおい通信 第148号

第148号 平成29年9月1日
リハビリテーション
デイサービス葵・編集委員会
練馬区東大泉3－17－5
カトウビル3F
電話 03－3978－0919

日本の祭り 青森ねぶた祭り

世界遺産めぐり最終章（文化遺産）

青森ねぶた祭り

八月中の祭りで少々時期は過ぎてしまいましたが、東北三大祭りの一つで、これを欠かすことは出来ません。毎年世界各国から三百万人以上の観光客が訪れると言われています

旧暦の七夕にあたる八月二日～七日に開催。青森市内で開催される本場「ねぶた祭り」を是非一度鑑賞してみてはいかがでしょう。

ねぶたの由来

青森ねぶた祭は、七夕祭りの灯籠流しの変形であろうといわれていますが、その起源は定かではありません。奈良時代（七一〇年～七九四年）に中国から渡来した「七夕祭」と、古来から津軽にあった習俗と精霊送り、人形、虫送り等の行事が一体化して、紙と竹、ローソクが普及されると灯籠となり、それが変化して人形、扇ねぶたになったと考えられています。

初期のねぶたの形態は「七夕祭」であったのでしょう。そこに登場する練り物の中心が「ねぶた」と呼ばれる灯籠であり、七夕祭は七月七日の夜に穢れ(けがれ)を川や海に流す、禊(みそぎ)の行事として灯籠を流して無病息災を祈りました。これが「ねぶた流し」と呼ばれ、現在の青森ねぶたの海上運行に表れています。「ねぶた（ねぷた・ねふた）」という名称は、東北地方を始め、信越地方「ネンブリ流し」、関東地方「ネブチ流し・ネボケ流し・ネムッタ流し」等の民俗語彙分布と方言学から「ねむりながし」の眠りが「ねぶた」に転訛したものと考えられています。

ねぶたの変遷

ねぶた祭は、日本各地の祭りの中でも屈指の大きな祭典に発展しました。享保年間（一七一六年～一七三五年）の頃に、油川町付近で弘前のねぷた祭を真似て灯籠を持ち歩き踊った記録がありますが、果たしてこれほどの祭りになろうとは、当時の人びとは夢にも思わなかったことでしょう。

≪天保十三年（一八四三）秋田の能代で七夕祭りを見た。それは〝ねむたながし〟と称して人形を出している。高さ三丈ぐらい大きさ三間四方の神功皇后三韓統一や加藤清正朝鮮遠征の人形で、ロウソクをともして、地車でひいている。人びとはカネ、太鼓、ホラガイではやしたて踊り騒いでいた。まことに珍しいことで、これは津軽の弘前や黒石、それに青盛（青森）のあたりにもあるとのことである。≫と江戸の風流人滑稽舎語仏（こっけいしゃごぶつ）が「奥ノしをり」に書いている

青森ねぶた祭の特徴の一つに、はねとの大乱舞があります。昔はおどりこ（踊子）といいました。いつの頃から（はねと）と呼ぶようになったかは定かではありません。しかし青森ねぶたに踊りがついていたことは、安永年間「一七七二～一七八一」の記録に残されています。

東西南北

新年号年頭のご挨拶の中で、片山社長は「今年は丁酉(ひのととり)、昨年に続いて火が金を溶かす相克の年だが、今年の相克は陰陰だから強烈な相克、昨年にも増して事件が起こりそう…と書かれているが、その予見通り、今年まだ三分の二しか経っていないのに、次から次へと色々なことが起きている。

その特筆すべき一番のことは天候だろう。北九州はじめ各地に降り続いた線状降水帯による豪雨と災害、のろのろ台風、西日本の猛暑。ここのところ続く震源地が茨城地方の地震や中国四川省の地震も気になる。

世界的な異常気象は、今年一月に誕生したアメリカのトランプ大統領の、パリ協定脱退が異常を促進しているような錯覚に囚われるが、もうぐずぐずせずに対策を取らないと地球は破滅するだろう。そのトランプ政権はいまだに閣僚が揃わず迷走中。北朝鮮と戦争なんて事にならぬ様に祈る。

北朝鮮の金正恩は満面の笑みで日本海や日本のEEZにミサイルを撃ち込んできたが、今度は日本の頭越しに弾道ミサイルを飛ばすという。面倒な事にならぬ様に祈る。今年六月、ロンドンのコンサート会場でテロが起こったがISSが衰退してから中東を中心に小規模のテロが頻発している。

日本の安倍首相は八月三日閣僚を入替えて自ら「仕事人内閣」と名付けたが、大臣には仕事が出来る人が就任するのが当然。素人を集め仲良し内閣を作ったから、第二次内閣で色々な問題が噴出した。改造をしても安倍首相の期待通りに支持率は回復しない。やはりモリ・カケ(森友・加計)、日報問題の疑惑が晴れないと国民は納得しない。

やぶにらみ

談話室

―季節の風物詩も―

大学時代に友人を花火大会に誘ったら「行きたくない」といわれた。「爆弾を思い出すから」と。友人はアフガニスタンからの留学生だった…ある新聞欄で高校教諭の女性(32)が綴っている。

夏になると生徒にこの話をするという。花火が苦手という声は日本の年配の方にもある。空襲を思い出す、と。季節の風物詩も、経験によって忌まわしい記憶と結びつく。

花火を原爆に重ねた人もいる。よく語られるのは、雷鳴や稲妻に被爆者が抱く恐怖である。あの閃光が甦るという。

花火のように優雅ではないが、雷も夏の季題である。〈あの閃光が忘れようか〉広島で被爆した詩人の作品にこう始まる一遍がある。題を「8月6日」という。その日がまためぐって来た。

人類史に前例のない惨事から72年、体験した者には忘れ得ない記憶も世代が移れば薄れよう。今夜以降も各地で花火が上がる。大輪をめでつつ、音や光を厭(いと)う人々の経験にも思いを致したい。恐怖の記憶の継承は、その再来を防ぐ力になる。光を放つ物体が北海道の西方に落下して10日とたたない中での原爆忌でもあった。

ヨッチャン

葵友の会 広報コーナー

8月の報告

18日（金）カラオケ「バンバン」にて。12名の参加。

9月の予定

15日（金）カラオケ

10月に一泊旅行を計画しています。

10月30、31（月、火）。大洗海岸「かんぽの宿」に宿泊。水戸偕楽園、明太パーク、マリンタワー見学など。雄大な太平洋を眺めながら楽しい時間を過ごしましょう。

◆編集委員会より
「あおい通信」は皆様からの原稿を募集しています。
係員・飯島

葵は「心と身体のリハビリ」で元気な「笑顔」を作ります

利用者さんの紹介コーナー

川井　保男（火、木）

詩吟を三十年以上やっておりました（今は声があまり出ませんが）。天気の良い日は林の中をウォーキングします。五千歩、一時間程度歩きます。

小室　仲男（木、日）

合気道をやっておりましたので、体力には自信があります。日曜大工などでも体を動かしていました。葵での運動も楽しんでやっています。

吉原　テル（金）

大宮より引っ越してきました。洋裁が得意で、今でも自分の洋服は作っています。※この写真の洋服も帯をリメイクして作ったものです。

変な？日本語コレクション

山村　匡子

●皆さん、「**さっぱりしているけど濃厚**」ってどんな味か、想像がつきます？

時々テレビで若い女性からこのコメントを聞きますが、想像するところ、油気がなくてサッパリしていてお料理はこってりした味なのかな。よくわかりません。

●若い女性が、焼き鮭を一口食べて「オイシー！**ふわふわ！**」ってのたまいました。鮭ってフワフワでしょうか

●東京湾に面した新しいマンションの紹介で、「窓の向こうには**東京湾の大海原が広がっています**」え～！東京湾って大海原なの？

●若い男女数人が、戦国武将の眠る寺を訪ねようとし寺の山門の前に来た時、女性の一人が「ワア！**由緒正しいっポイ!!**」と叫んだので、私には由緒正しいのか、どうか分らなくなりました。

●車が海に転落した事故のニュースで、若い女性リポーターが「車が海に転落したのが、**対向車によって発覚しました**」と報告していたが、対向車は転落を目撃したのであって、悪事ではないから発覚はない。

●米軍と自衛隊の合同練習が終わったニュースで、女性アナウンサー「この後、自衛隊は米軍基地にも**潜入します**」。エッ米軍基地に潜入して大丈夫？　大丈夫。でも、米軍と一緒に入るのは潜入と言わないと思うが。

●秋田でタケノコ取りの女性が熊に襲われたというニュースで「**ツキノ、ワグマ**」に襲われた、と新人アナウンサー。それは「**つきのわぐま**」でしょう！変なところで切るな！！

●以前、モチモチのパンて食べ難そうと書いたことがありましたが、本当にモチモチのパンがありました。柔らかいのに、両手で引き裂こうとしても裂けないパンが…。でもおいしかったです。

ホット　コーナー

「寝る子は育つよ」生後2カ月

上野動物園でジャイアントパンダの赤ちゃんが生まれてから2カ月。動きが活発になり、体重は3キロに増えた。14日、福田豊園長が会見し、「母親のシンシンがよく面倒をみており、子どもの成長は今のところ順調。今後さらにパンダらしい特徴が出てきてかわいさが増して行く」11日に8回目の身体検査があり、体重は3010・4キログラム、鼻先からしっぽのつけ根まで体長は43・9センチだった。

赤ちゃんは両目を開いているものの視力はまだなく、はいはい・寝返りができる程度。1日2～3回の授乳以外は寝て過ごしているという。100キロ以上あるシンシンが上にのって潰してしまう可能性もあるため、職員と中国から招いた保育の専門家が出産直前から24時間態勢で2頭の様子を観察している。公開は生後6カ月を迎える年末が目安とされ、その頃には木によじ登ったり、走ったりできるようになるという。　Kドラゴン

江戸城ウォーキング

絹田治夫

大手門

大名が本丸に登下城するときに使った江戸城の正門。高麗門と櫓門の二つからなる枡形門で、場内最大の門。慶長年間（1596～1615）に創建されたが明暦の大火で類焼。その後再建されました。現在の高麗門は遺構。櫓門は第二次世界大戦で焼失し、1967（昭和42年）に復元されました。

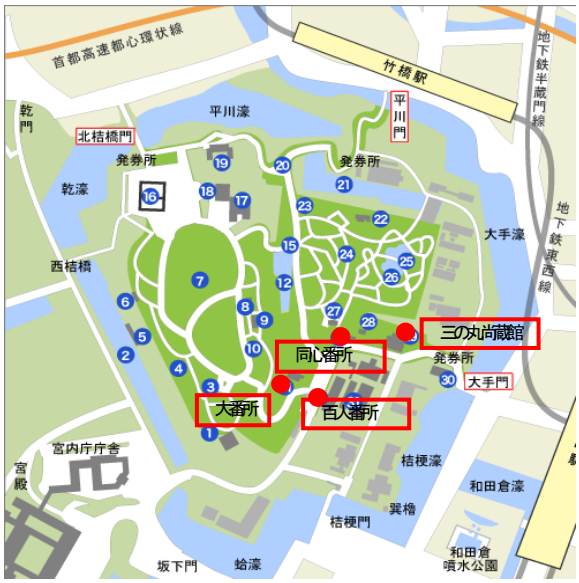
三の丸尚蔵館

大手門から入ると、すぐ右手に三の丸尚蔵館が見える。三の丸尚蔵館は、皇室に代々受け継がれた絵画・書・工芸品などの美術品類に、故秩父宮妃、故高松宮妃、遺贈品が加わり、現在約9500点の美術品類が収蔵。順次公開されています。

現存する三つの番所

「番所」とは、警備の詰所のこと。江戸城の警備は非常に厳重で、大手門から本丸までに、同心番所、百人番所、大番所が設けられ、三つの番所を通過して初めて本丸に入ることができました。

つづく



私の人生

額田美保

人は誰でも一つの人生の主人公。私の人生の主役は私。あなたの人生の主役はあなた。目に見えない何処かで、多分オーデションを受けて、抜擢されて主役に選ばれたのが、私の人生の私なの。そしてその私の為に選ばれた脇役の人達が次々に登場して呉れたのではないかしら。少なくとも私の人生の主役の座を護り通さなくては為らないと思うのです。脇役の中には、間違って来て終った人も居たし、折角私の人生を、共に素晴らしいものにして呉れる筈の人を、何かの手違いで見失って仕舞った事も有ったでしょう。人生の主役を演出するのも自分なのです。でも力不足の私は名演出家にはなれませんでした。いつも失敗ばかり、それでとうとう今日まで名演技も披露出来ずに来て終いました。

やり直しの効かない人生、たった一度の此の機会を後悔してみても今更追いつきません。でも未だ少しだけ残された時間が有るのです。時はどんどん走り去ろうとしていますが、たった一度の人生の主役の座、それを忘れず最後まで若い心で生きるのです。そんな私に拍手喝采するようにセミの鳴き声が急に高く響きました。人生死ぬまで闘いなのです。戴いた主役の座を守り通して、私は

あおい・歌壇・川柳

はらからも　年を重ねて　話題にも
言い得ぬことのみ　スマートフォン

麻生伊登子

チャーミングな女で居たい。その為に身も心も磨き続けなくては、終わり行く日まで…

メモ帖

我々は暑い夏の醍醐味「冷菓子」を求め、かき氷やアイスクリーム食べる。その時、頭がキーンと痛くなった経験があると思うが、何故だろう？

「冷たい」という刺激は喉の奥にある三叉神経などを通じて脳に知らされて感じる。だが冷たいものを一気に、また大量に食べると、強すぎる「冷たい」感覚は「痛い」と捉えられてしまい、誤って伝わるそうだ。ご用心。